

## 小学校高学年や中学生の居場所を探しています



学校から、子どもの歩く速さで5分程度の場所で発達障がいや事情により児童センターや自宅で過ごせない子や課題のある子の勉強や放課後過ごせる居場所を探しています。

また、不登校のお子さんたちのサポートも将来行えたらと思っています。一緒に考えていただける仲間も同時に募集いたします。

まずは、実施するのは数年後の予定です。一緒に考えてもいいよという方がいらっしやいましたら、たんときッズあおき 飯島までご連絡ください。

### コラム ～ 日本語はむずかしい ～

みなさんは Youtube を見ることはありませんか？私がよく見るチャンネルで「Kevin's English Room」という番組があります。海外と日本、特に言葉や文化の違いを紹介しているのですが、「外国人にとって意味不明な日本語の文章が意外すぎる！」という回を見ていたのですが、今回は日本人が普段当たり前のように使っている言葉を英語の文章に直訳するとまったく意味が通じない言葉が沢山あるという話でした。

この時期だと「夏はビール！」や「冷やし中華始めました！」なんて言葉は主語が抜けているので、英語で直訳するとまったく意味が通じません。あと、飲み物を購入する時の質問で「店内ですか？」と聞かれると、外国人は「は？」となるそうです。

そうですね「夏はビール！」という言葉には「夏はビールを飲みたくなるよね」とか「夏は暑いから冷たいビールが飲みたくなるよね！」という言葉になると思います。「冷やし中華始めました！」は、「冷やし中華の販売を始めました！」になるかもしれません。もっというと”中華”という食べ物はそもそもないので英語で訳すと「ただチャイニーズ」という意味になってしまうのでなんの食べ物なのかわかりませんね。「店内ですか？」は直訳すると「あなた店内さんですか？」と聞かれていると思うようです。特にこの言葉などは日本に住んでいる人でも混乱することがあるようです。

一番聞いていて確かに！と思った言葉がありました。

小さい子に「いくつ？」という質問、みなさんはわかりますよね？そう年齢を聞く質問です。その答えに子どもは「3つ」などと答えますし、私達も「そう3つね」と答えます。どうですか？とくに不思議なやりとりではなく、あたりまえのやりとですよ。

でも、これを外国の方が聞くとびっくりするそうです。年齢を聞く時「何歳？」と習います。英語にすると「How old are you?」です。「これがいくつ？」という言葉になると「How many?」などになると数を聞く質問になりますね。そう、まったく年齢を聞いている話に聞こえないんですよ。

日本語は、地球上の言葉の中でもかなり難しい言語の一つとされています。省略する言葉やあいまいな表現などが正しい言葉として使われているので、中には理解が難しい人達もいるので、必要に応じて使い分けていく必要があるかもしれませんね。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんときッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

## たんときッズあおき (NPO法人たんと。)

### TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たんと



# あなたの知らない発達障がいの世界

2023.07

## 感覚過敏と感覚鈍麻の世界

みなさんは、「感覚過敏」や「感覚鈍麻」をお持ちでしょうか？ アレルギー？花粉症？それも言ってしまえば感覚過敏と言っても良いかもしれません。

感覚にはどのようなものがあるでしょうか？

1. 視覚 2. 聴覚 3. 触覚 4. 嗅覚 5. 味覚 6. 前庭覚

この6つの感覚が特に発達障がいの方たちには特徴的に現れる方が多くいます。

この中でわかりづらいものは「前庭覚」でしょうか？

前庭覚は、バランスをコントロールしている感覚の一つで、揺れや回転、速さなどを感じる感覚です。

車酔いしやすい人は、この前庭覚が関係していて、耳の奥にある三半規管という場所が関係していると言われています。

そしてこの6つの感覚が過敏の人や鈍麻（鈍感）な人がいるということなのですが、先程のアレルギーのような感覚として考えるとわかりやすいかもしれませんね。



みなさんの中にも花粉症の方はいらっしゃると思います。花粉症の方は時期になると毎日のように目が痒くなったり鼻がグジュグジュしてずっと花が詰まってしまうたりとても辛い日が続くと思います。辛い感覚ですが、今は薬を飲むと改善されたり時期が終わると症状が落ち着いて平穏な生活を送れるようになりますね。



しかし、感覚に過敏な方はずっとその状態が続くと思ってください。そして、薬で改善することも難しいのです。

状況によってはその過敏な感覚で苦しいこともあります。

また、鈍感な方も同じで逆に感じにくいので気づくのに遅れてしまったり怪我をしやすかったりします。

その中でも、多くの方が敏感な感覚を持っているのが、視覚と聴覚の感覚です。

明るいとこが苦手な人、ざわざわした場所では落ち着かなかったり、TVなどで苦手な音が流れて来ると耳を塞いで聞こえないようにしている人がいたりします。

強い光だけではなく、通常の蛍光灯の光も苦手な人も中にはいらっしゃいます。



雷が苦手な人はいらっしゃると思いますが、確かに雷が怖いだけではなく、突然光ることや音が苦手な人もいらっしゃると思いますよ。きっとそれも同じかもしれません。

それとは逆に、ピカピカ光るのが楽しかったり、急に鳴る音が気になる人も少なからずいるので全員が同じではありませんが。

嗅覚に過敏な方は、ちょっとした匂いでも気になってしまう人がいます。私たちが気にならないちょっとした匂いでも気になってしまいその場にいられなかったり、多くの方は「ちょっと匂うかな」ぐらいでも、まるで悪臭の中にいるみたいな感覚を感じてしまいつい「臭い！！」と叫ぶほどになってしまうなんてこともあります。つい思ったことを口にしてしまうのも実は特徴だったりもしますが、それはまたいずれ。

いずれにしても常にそんな感覚の中で暮らしているのはつらいですね。最近はサングラスをしていても気にされなくなったり、イヤーマフ（ヘッドホンのようなもの）をしていても気にされなかったりと受け入れてくれるようになって来ています。今の時代は、ノイズキャンセル機能付きのイヤホンなどがあって音を遮断する機能がついているものあって、日常生活の中ではとても暮らしやすくなってきました。

もし近くに感覚過敏や鈍麻な特徴を持った人がいたら、辛くならないように気にかけて見守ってあげてください。「特に良かれと思って」ではなく、配慮をお願いされた時、必要な配慮をお願いします。